

## 2020 年度事業報告 (2020-04-01 ~ 2021-03-31)

### I 事業概況

#### [0] 基本方針・重点課題と成果

1. 昨年度創立 100 周年を迎えた本会が、新たな 100 年への道に踏み出すにあたり、中長期的な視野の下、「エスペラント会館の今後検討準備委員会」の設置など、事業・運営方法の見直しに着手し始めた。
2. 新型コロナウイルス感染症蔓延（以下「コロナ禍」）で予定されていた国内外の多くのエスペラント行事が中止、縮小に追い込まれたが、第 107 回日本エスペラント大会（9 月、名古屋）は初のオンラインを併用したハイブリッド形式が実現した。なお、理事会等の会議はオンライン開催が標準となった。
3. 多言語・多文化共生時代におけるエスペラントの役割について認識を深める諸活動を行った。

#### [1] エスペラント普及事業

(担当：普及推進部)

##### [1.1] 基本方針と成果

1. 国内外のエスペラント組織と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を伝え、エスペラントを普及する活動に取り組んだ。
2. 当会会員との連携を強化し、会員以外の個人、団体とも協働の輪を広げ運動の発展を図る活動に取り組んだ。
3. エスペラント界外との連携、協働を進める活動に取り組んだ。
4. 広報委員会の活動を軸として一般への効果的なエスペラント広報活動を進める活動に取り組んだ。

##### [1.2] エスペラント普及事業

1. 国内のエスペラント運動の現状把握と活性化  
(1) 各種団体と連絡を取りあい、活動状況の情報を収集し、公開した。学校関連の 2019 年度の状況を『La Revuo Orienta / エスペラント』(RO 誌) 2020 年 7 月号に「学校でのエスペラント運動(2019 年エスペラント運動年鑑一補遺)」として発表した。また、広域、地域、専門の 2020 年の状況を RO 誌 2021 年 4 月号に「2020 年エスペラント運動年鑑」とし

て発表した。

- (2) 「運動年鑑」の情報を、日本エスペラント大会での初回参加割引と連携させ、新たな人とのつながりづくりの枠組みを設けた。
- (3) エスペラント界外の多言語多文化共生、国際協力などにかかわる団体との協働では、以前から活用していた行事・機会が、コロナ禍で失われたため、新規開拓は進められなかったが、JACTFL (一般社団法人日本外国語教育推進機構) 主催のオンライン多言語教育シンポジウムへの講演協力と、同研究会誌への広告掲載を行った。
2. 各エスペラント団体との協働、各団体の活性化  
(1) 地方エスペラント大会 (7 大会中 3 大会がコロナ禍でも実施された) に理事長挨拶を送り、2 つの大会には理事が出席した。  
(2) 「エスペラント会懇談会」の日本エスペラント大会での会合は 2019 年の台風、2020 年のコロナ禍で、2 年続けて開催できなかった。メーリングリスト (FLES) は情報共有、経験交流の場として存続はしたが、つながりの強化や拡大は図れなかった。
3. 会員の拡大・定着  
(1) 団体会員 56 (1 増)、個人会員 952 人 (42 減)。個人会員の内、新入会員 28 人、電子版会員 53 人 (7 増)、青年会員 45 人 (増減なし)、71 歳以上 404 人 (32 減)、30 歳以下 40 人 (7 増)。数値は 2021 年 3 月現在。2020 年 3 月までの入会キャンペーン期間中の新入個人会員 122 人の大半 (約 6 割) が会員を継続。  
(2) 青年エスペラント企画支援金による支援はできなかった。  
(3) 青年エスペラントティストの派遣促進による、エスペラント会への支援も進められなかった。
4. 運動への功績  
日本エスペラント大会で、佐々木照央に小坂賞を授与した。さらに、同大会において、JEI 永年会員の表彰や、主要団体の活動報告や表

彰の場を設け、運動への貢献や功績を広く共有した。

### 【1. 3】 エスペラント広報事業

広報委員会会合を10回開催した(いずれもDiscord)。

#### 1. 本会ウェブサイト 行事・講習会情報の提供の充実

広報委員会からの情報や、行事・講習会情報を継続的に掲載。

#### 2. フェイスブック、ツイッター、ユーチューブ活用 日本エスペラント協会アカウントで情報発信を継続した。動画の活用はできなかった。

#### 3. マスコミ向けのニュースリリース

「エスペラントの今」を3回発行(20号～22号)  
(2020年5月に『新型コロナウイルス・世界の仲間からの報告』、同年8月『東日本大震災からの復興とエスペラント』、2021年3月『世界文学と〈東西双書〉』、それぞれRO誌に転載)。

#### 4. 広報材料の拡充

(1) エスペラントの紹介や活用の国内外の動画を紹介する活動は「エスペラントの日」広報で実施したが、ほかに多くは進まなかった。

(2) 第4回エスペラント紹介動画コンクール(2021年締切)の募集を開始した。広報チラシを発行した。

#### 5. 東京のお台場の「グローバルフェスタ JAPAN2020」

最大級の国際協力イベントへの恒例の出展(講演、展示、ミニ講座)を予定していたが、コロナ禍により行事が中止となった。

#### 6. 第107回日本エスペラント大会(名古屋市)をSNSなどを用いて広報した。

#### 7. 「エスペラントの日」の効果的活用

6月12日の直前に、紹介動画「国際語エスペラントって何だろう?」を用いて、本会ウェブサイトからSNSへの拡散を図った広報を行った。

8. 世界エスペラント協会による広報に協力・協働  
ユネスコ「国際母語の日」(2021年2月21日)の日本語版広報資料の作成を行うとともに、アイヌ語、沖縄語関係者と協働をした。

### 【2】 エスペラントを用いた国際交流事業

(担当:国際部)

#### 【2. 1】 事業の方針と成果

##### 1. 世界エスペラント協会(Universala

Esperanto-Asocio = UEA)の日本における国際代表組織としてのエスペラントによる国際交流事業、UEAのアジア・オセアニア委員会(Azia-Oceania Komisiono = KAOEM)、日本のUEA委員、UEA-delegito(都市代表者)との協働を実施したが、その多くは、コロナ禍の影響を受けた。

2. 日本のエスペランティストが行うエスペラントによる国際交流事業への支援は、コロナ禍の影響もあり、十分に行えなかった。

3. 外国のエスペランティストに日本国内のエスペラントによる国際交流事業への参加を促す活動も、十分に行えなかった。

### 【2. 2】 国際交流事業

1. 2020年に開催される国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかけたが、コロナ禍の影響で行事の多くがオンライン開催に変更されたり中止された。

(1) 第105回世界エスペラント大会(UK、8月1日～8日、カナダのモントリオール)への旅行団は企画協力し、受け付けが進んだが、UK中止により中止となった。UKの代わりにVK(Virtuala Kongreso de Esperanto)と関連行事のMondaFest' 2020がオンラインで開催された。

(2) 第76回国際青年エスペラント大会(7月10日～19日、オランダのソメレン)はオンライン開催に変更された(7月11日～18日)。

(3) 第38回東アジア青年エスペラントセミナーはオンライン開催に変更された(11月28日～29日)。

#### 2. KAOEM、アジア関連

*Esperanto en Azio kaj Oceanio* 107～110号を日本で印刷・発行し(計4回)、その購読(UEAアジア・オセアニア基金への寄付)を呼びかけた。

#### 3. その他

(1) 国際文通サービスを継続して実施し、5件を仲介した。

(2) 青年エスペランティスト国際行動支援金については今年度は供与が無かった。

### 【3】 エスペラント研究教育事業

(担当:研究教育部)

#### 【3. 1】 事業の方針と成果

##### 1. 教育部門においては、オンラインセミナー

の実施など、ウェブを活用した新しい試みを行うことができた。

2. 研究部門においては、取り組みが不十分だった。
3. ハヶ岳エスペラント館は、コロナ禍により開館を見合わせた。
4. 研究教育部員および各種委員の募集は進まなかった。

### 【3. 2】研究教育事業

1. エスペラントセミナーは対面形式のため開催せず、オンラインでのセミナーを3回実施した（11月14日：参加者18人、11月21日：参加者16人、2021年3月6日：参加者15人）。
2. エスペラント学力検定試験を実施し、エスペラント学習者の語学力向上に貢献した（9月20日、名古屋での日本エスペラント大会：受験者8人、3月27日、JEI：受験者8人）。また、学力検定試験の会話試験のリモート化に備えた。エスペラント学力検定規程の改定を行い、会話試験をリモートで行えるように既存の試験方法の見直しを行った。
3. KER 試験（ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR 準拠試験のエスペラント版）を実施した（11月28日：受験者6人）。
4. ドリル式エスペラント入門についてオンラインセミナーで言及し、ウェブ版での学習支援についてもアピールした。
5. 多言語・多文化共生時代に適応した語学教育としてのエスペラントの社会への提案は進まなかった。
6. 文芸コンクールを実施し、エスペラントでの翻訳・文芸活動に貢献した（入選作：翻訳2点、エスペラント原作3点）。研究発表会は開催に至らなかった。
7. エスペラント研究推進・発展のための取り組みは進まなかった。

### 【3. 3】ハヶ岳エスペラント館における事業

本年度は開館しなかったが、運営委員による施設維持活動（換気、清掃、草刈り等）を行い、施設の保全に努めた。

### 【4】エスペラント雑誌の刊行事業

（担当：編集部）

#### 【4. 1】事業の方針と成果

1. 雑誌『エスペラント／La Revuo Orienta』

（RO誌）を年11回発行し、エスペラントの普及発展に資した。

2. 多言語・多文化共生に関連して、アイヌ語・日本語・エスペラントの3言語による対訳連載を開始した。

#### 【4. 2】雑誌刊行事業

1. RO誌を毎月（8、9月は合併号）刊行した（電子版、音声版を含めて）。発行部数は年度当初は1200部、年度最終は1100部。
2. 他部門と連携し、特集号を発行した：4月特集（2019年エスペラント運動年鑑）、2021年1月号特集（第107回日本エスペラント大会報告書）。
3. 図書販売部門と連携し、2021年2月号外として『在庫図書カタログ』を発行した。
4. 編集会議を、拡大編集会議1回を含めて、年11回、リモートで実施した。

#### 【5】エスペラント図書等の刊行及び頒布事業

（担当：出版部）

#### 【5. 1】事業の方針と成果

1. エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行った。
2. 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また内外のエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

#### 【5. 2】図書刊行事業

1. 図書の発行 実績なし。
2. 今後の出版物の計画  
(1) 新日本語エスペラント辞典の2026年刊行を目指し取り組みを進めた。編集委員会の会合を計7回リモートで実施した。

#### 【5. 3】図書頒布事業

- (1) エスペラント書籍・雑誌の販売、取次ぎを行った（コロナ禍の影響により、書籍販売を4月は中止、5月は通信販売のみとし、6月から全面再開した）。
- (2) 『在庫図書カタログ』を、2017年版と同様の形式で作成し、2021年2月にRO誌2月号外として発行した。また、同カタログをウェブ掲載した。

#### 【6】エスペラント大会主催事業

（担当：大会組織部）

#### 【6. 1】事業の方針と成果

2020年の日本エスペラント大会を開催し、ま

た同大会を毎年継続して各地で開催できるよう大会開催候補場所の検討、交渉を進めた。本大会の開催が、開催エスペラント団体の活性化とその地域でのエスペラントの普及推進に寄与できるものとすべく、公開講演会や無料講習会等を実施した。また、大会経験の蓄積と共有のため、過去の大会資料の大会組織部の共有フォルダへの保管を進めた。

## 【6. 2】日本エスペラント大会主催事業

1. 第 107 回日本エスペラント大会を開催した。
  - (1) 開催日：2020 年 9 月 20、21、22 日（日、月祝、火祝）。
  - (2) 会場：ウインクあいち
  - (3) 共同主催団体：第 107 回日本エスペラント大会名古屋委員会（協力：名古屋エスペラントセンター）
  - (4) コロナ禍のため、初めてオンライン参加（Zoom、Discord 使用）を設定し、会場とオンライン参加のハイブリッド方式で開催した。会場では、入館時の検温・手指消毒・パーティション設置等の感染症対策を行った。当初予定されていた海外からの参加者の講演等は、オンラインまたは録画放映で行われた。
  - (5) 大会テーマ：愛と知を奏でよう！－日本のまん中で－/ Sonoru amo kaj saĝo! – el la meza Japanio –
  - (6) 参加者：359 人（登録数。うち会場参加 117 人、オンライン参加 104 人、不在参加 74 人、不参加 64 人）
  - (7) 前年大会と同様に、来場しなかった参加登録者について、不提供サービスの実費は払い戻したが、参加費は払い戻さないこととした。
  - (8) 伊藤俊彦著の書籍『歴史・文学・エスペラント』およびシール“Oraj Delfenoj”（山田義デザイン）を記念品として発行、配付した。
2. 第 108 回日本エスペラント大会を 2021 年 9 月 18 日（土）～20 日（月・祝）に JMS アステールプラザ（広島市）で開催することを決定した。第 107 回大会中に La 1-a Informilo を配布、参加受付を開始した。広島エスペラント会を共同主催団体とし、大会のための実行委員会を立ち上げた。また、この大会より、参加者のカテゴリーを全面的に見直した。2021 年 3 月に La 2-a Informilo を発行した。
3. 第 109 回（2022 年）以降の日本エスペラント

ト大会の開催方法について検討を行った。第 109 回の開催地については、検討・交渉中である。

## 【7】その他事業及び法人の管理

（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

### 【7. 1】基本方針と成果

1. 会員数は、全体として減少傾向が続いているが、本会のエスペラント事業の核となる活動を支援し、会員数の維持・拡大に努めた。
2. 各事業部門と連携し、事業が円滑に行われるよう支援した。
3. 本会のより効果的な管理・運営方法の見直しと確立に取り組んだ。

### 【7. 2】総務部担当事項

1. 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援等）を事務局および関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て、着実に実行した。
2. 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を 5 回開き対応した。
3. JEI 創立 100 周年記念事業としての図書館整備（収蔵図書の書誌データ等のデータベース入力）に着手した。図書館長の選任は実現できず、通常業務のボランティアの確保もできなかった。
4. 図書販売促進のための各種行事を利用した対策は、行事自体の不実施により、行えなかった。
5. 関連事業部と協力しての第 105 回世界エスペラント大会（カナダ、モントリオール）への旅行企画は、同大会がオンライン開催となったため、実現しなかった。
6. 6 月 16 日に第 8 回「エスペラントの日」記念講演会を開催し、64 名が参加した。後日、講演の一部を本会 YouTube チャンネルで公開した。
7. 会議や行事等はできる限りオンラインでできるよう、体制を整え支援した。
8. エスペラント会館の簡易耐震診断を受け、修繕計画を含めた検討を目的とする「エスペラント会館の今後検討準備委員会」を立ち上げた。
9. 『日本エスペラント協会（JEI）100 年史』を公立図書館、大学図書館等の約 50 図書館に寄贈した。

10. 株式会社グーテンベルクオーケストラによる全文英文雑誌 *Esperanto Culture Magazine* の発刊に際し、本会として違和感の表明を行った、同社と対話を行った。

### 【7. 3】財務部担当事項

1. 公益目的支出計画および長期予算計画との整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努めた。財務体質強化のための基礎資料として、「JEI の財務状況と今後の課題」をまとめた。

### 【7. 4】ウェブ管理部担当事項

1. 本会のウェブページにて、情報公開、会員サービス、本会事業（行事や雑誌等）の広報を充実させた。
2. フェイスブック、ツイッターも活用し、エスペラント広報を支援した。
3. 会員専用ページの運用を進め、会誌バックナンバーの検索・閲覧、学習相談などに対応できるように改善した。
4. 新たなウェブ共同運営体制を構築し、以下の活動を行った。
- (1) 入会用のウェブフォームを設置した。
- (2) 2021年1月4日の「国際点字デー」にあわせ「点字データ保管庫」を開設し、点訳ファイルの取納・公開を行った。
- (3) 新規来訪者向けに、動画を含む紹介サイトの作成を行った。
- (4) 本会ウェブサイトのために WordPress テーマとして Zakra を導入し、ユニバーサル・デザイン対応も可能とした。

## II 庶務事項

### 1. 会議の開催

- (1) 評議員会：6月21日
- (2) 理事会：5月31日、6月28日、7月4日、2021年3月21日
- (3) 業務執行理事会：9月6日、2021年1月24日
- (4) 副理事長会：4月16日、7月16日、8月12日、11月12日、2021年2月18日
- (5) 監査：5月30日
- (6) 協議員会：2021年1月24日
- \* 7月以降の会議は全て、リモートで行われた。
- (7) 9月21日、第107回日本エスペラント大会にて（オンライン併用で開催）

2. 会員：1,030（2021年初、個人会員974、団

体会員56）

### 3. 役員・職員等の人事

- (1) 評議員：任期終了（6月）のため、評議員選定委員会を4月10日に開催し、新評議員（任期2020年6月～2024年6月）を選定した。
- (2) 理事・監事：任期終了（6月）のため、協議員による理事及び監事候補具申のための選挙を実施（告示：2020年3月1日、開票：5月16日）。評議員会（6月21日）にて新任期（2020年6月～2022年6月）の理事（定数10人）・監事（定数2人）を選出した。その後、新理事による理事会（6月28日、7月4日）で理事長や各業務執行理事の業務分担を決定した。理事長が交代した。
- (3) 協議員：2021年～2022年任期の協議員選挙（定数11人）を10月1日に告示。無投票により立候補者を全員当選とし（11月7日）、選挙結果をもとに理事会が新協議員を選任した。
- (4) 事務局：福田政則が事務局長退任（7月20日）、相川拓也が事務局長就任（7月21日）。  
(以上)